

平成22年度 宮前区協働推進事業評価一覧表

NO	事業名	目的及び内容	開始年度	予算額(円)	決算額(円)	成果	次年度以降の事業計画	具体的な展開方針 (※終了する場合は終了理由)	優先度	担当課
1 安全で快適に暮らすまちづくり										
1	安全安心まちづくり推進事業	区民、地域団体、行政機関等の連携・協働により、防犯・防災・交通安全などの推進を図り、暮らしやすい地域生活の環境づくりに取り組むための各種事業・施策の展開を図る。	平成18年度	650,000	622,935	平成22年度は防犯的な観点から地域の落書き消しに対する支援を行い、ボランティア団体や、町内会・自治会とともに活動に取り組み一定の成果を得ることができた。	現状どおり	今後も宮前区全体を見据えた安全・安心の取組みを推進し、引き続き、防犯資器材の貸与、落書き消しに対する支援等を行っていく。またあいさつ運動等による地域の絆を強める運動が防犯、防災に効果的なことから、町内会・自治会、学校等に対して支援を行っていく。	A	地域振興課
2	区境・市境を越えた安全・安心まちづくり推進事業	近年、犯罪が複雑化する中で、防犯活動への関心は高くなっており、区役所においても、警察や市民・地域との協働のもと地域防犯施策の推進体制を整備することは大きな課題となっている。犯罪等を未然に防ぐために安全で安心して暮らしていけるまちを目指して「宮前区安全安心まちづくり推進協議会」「子ども安全安心協議会」を中心として警察や関連団体等と協議を行い、隣接する高津区等と区境や市境を越えた連携を行うことにより、防犯の隙間を作らない取り組みを行っている。	平成20年度	251,000	169,712	平成22年度は高津区の地域防犯パトロール団体、警察等と合同防犯パトロールを行った。参加者は両区併せて100人を超え、区境の地域住民に安全安心に対する意識を啓発することができた。また区境地域における連携的なパトロール等防犯活動の活性化のために、防犯ベスト、腕章、安全安心見守りカード等の防犯パトロール資器材の貸与を行った。	終了する	犯罪等を未然に防ぐために、区境において合同で防犯パトロールを行い、情報交換等を行うことは今後も重要になってくると思われるが、単独の事業としては終了し、今後は事業が重なっている「安全安心まちづくり推進事業」に統合していく。	—	地域振興課
3	子ども安全・安心見守り事業 (区民会議課題)	宮前区子ども安全・安心協議会等を開催し、区内の学校、保護者をはじめ、地域住民、事業者、関係団体、警察、行政機関が連携し、子どもを犯罪から守り、登下校時等における子どもの安全を確保する。 実施内容 1 子ども安全・安心協議会等の開催 2 「宮前区子ども安全・安心通信」年2回発行 3 各小学校区子ども安全・安心協議会が実施する「地域安全マップづくり」への支援	平成19年度	960,000	537,885	子ども安全・安心協議会の開催により、地域の子どもの安全の確保のための活動の情報交換、共有ができ、関係機関、団体、地域住民等の連携の強化が行われた。 「宮前区子ども安全・安心通信」の発行により子ども安全・安心協議会の活動の広報ができた。 小学校で「地域安全マップ」づくりを実施し、子どもたちの危機管理能力の向上が図れた。	見直し・改善の上継続	「地域安全マップ」づくりの取り組みが、学校単位では実施できなくなっている。継続について、検討する必要がある。	B	子ども支援室
4	防災意識普及啓発事業 (区民会議課題)	「いつ起こるかもしれない」大地震等の災害に備えるため、防災フェアの実施や、防災ニュースの配布などを通して、区民一人一人に防災に関する知識を根付かせ、防災意識の向上を図る。 また、防災推進員養成研修を開催し、各自主防災組織でリーダーの役割を担う人材を養成する。	平成20年度	2,450,000	1,703,939	防災フェアにおいては、各種防災関係機関による防災展示・実演、防災講習会などを通して、区民の防災意識の普及啓発を行うことができた。 4半期に1回、年4回の「防災ニュース」を発行し、町内会自治会等に回覧することで、区民一人一人に防災意識を喚起することができた。 防災推進員養成研修では、39名が防災に関する知識や啓発手法について研修を受講し、宮前区防災推進員として登録された。	現状どおり	3月11日に起きた東日本大震災は宮前区でも震度5弱を記録し、区民の防災意識は大きく向上している。関心の高い今こそ災害時の被害を最小限に抑えるために、防災ニュースの発行、防災フェア、研修等の実施をとおして普及啓発活動継続的に行っていかなければならない。	A	地域振興課

平成22年度 宮前区協働推進事業評価一覧表

N O	事業名	目的及び内容	開始 年度	予算額 (円)	決算額 (円)	成果	次年度以降 の事業計画	具体的な展開方針 (※終了する場合は終了理由)	優先度	担当課
2 幸せな暮らしを共に支えるまちづくり										
5	高齢者健康づくり 支援事業 (区民会議課題)	地域の身近な公園で地域住民が主体的に体操等の活動を展開し、介護予防、生活習慣病予防、閉じこもり予防を図っている。宮前区オリジナルストレッチ体操「風の中で」のCDやカセットテープは平成21年度作成したところであるが、体操の動きを入れたリーフレットを作成し配布することで体操参加者が動きを確認し練習することが出来、この体操がより普及できる。また、公園体操マップを平成21年度作成したが好評であり、新たにできた2グループも入れ増刷することで、更に公園体操を普及し区民の健康のレベルアップを図る。	平成20年度	456,000	405,300	オリジナルストレッチ体操「風の中で」のきれいでわかりやすいリーフレットができ、公園体操や介護予防普及啓発で活用している。子育て支援センターで若い人もこの体操に取り組んでいる。また、平成22年10月に体操のお披露目を運動普及推進員と共催で実施し100名の参加があった。	見直し・改善の上継続	オリジナル体操「風の中で」の動きのリーフレットは好評で、すでに体操を行っていた人も動きのポイントがわかるのとことで配布し、他の体操普及の場面も多く2000部作成したがそのほとんどを配布した状況になり、平成23年度増刷を予定している。また、公園体操マップも平成22年度増刷した3000部が、残り1000部となり、平成23年度に2箇所の新包括支援センターも入れ増刷予定である。更に公園体操、オリジナル体操の普及を推進していく。また平成23年度はみんなで実践、健康づくり支援事業として健康づくり情報紙を発行し、より多くの区民が健康づくりに取り組むことで健康のレベルアップを図る。	A	地域 保健 福祉課
6	宮前区食育推進 事業	・宮前区食育推進分科会の協力を得て、区内の「食育」に関する情報と食育活動事例を記載した「宮前区食育ガイド」を作成配布する。 ・「宮前区食育ガイド」の作成と同時に「宮前区食育フォーラム」を開催し、「宮前区食育ガイド」の周知をし、冊子活用による食育活動の推進を図る。	平成22年度	2,057,000	1,132,691	「宮前区食育ガイド」作成に当たり、区内の食育活動をしている団体との連携がとれた。また冊子配布と「宮前区食育フォーラム」を開催後、「食育教室」の依頼や区内中学校にて「食育授業」を地域の食育活動グループと当センター・中学校と連携して実施することになり、区民同士が協力し合っ、食育の推進を図ることができる。	終了する	今後の宮前区における食育の情報提供は、健康づくり情報紙に、区内の食育イベント（食育活動の催し等）として掲載できるようにする。 また「宮前区食育推進分科会」と協働で、食育活動の情報交換として「食育交流会」を定期的に、企画実施する。	—	地域 保健 福祉課

平成22年度 宮前区協働推進事業評価一覧表

NO	事業名	目的及び内容	開始年度	予算額(円)	決算額(円)	成果	次年度以降の事業計画	具体的な展開方針 (※終了する場合は終了理由)	優先度	担当課
3 人を育て心を育むまちづくり										
7	子育て情報発信事業 (区民会議課題)	宮前区は地形的に区役所などに情報を得に頻繁に訪れることは、困難であるため、ホームページ等による情報発信の実施が必要である。情報が不足していた就学以上のこどもの情報の充実。未就学児童の子育て情報の改訂を行う。	平成21年度	1,760,000	1,677,378	みやまえ子育てガイド「とことこ」ホームページでは、就学後の手続きや子どもの相談に係る情報の掲載がなかったが、子ども子育てホームページの開設により、就学後の子育ての情報が充実した。0歳から18歳までの子どもに関する情報を集約することで、情報の検索等が容易になった。	現状どおり	より情報提供の充実を行うため、担当職員のスキル向上を行う。	B	こども支援室
8	親と子の子育て応援セミナー事業 (区民会議課題)	「親の育児力」をつけるために、区内公立保育園、地域子育て支援センター、先輩ママたちと連携し、子育てに関する知識・技術を持つ人材を活用し、個別テーマによる出前講座(6回の連続講座)を実施する。転入者が友だち作りのきっかけとなるよう、35組の前期・後期とこどもサポート南野川を活用したミニ講座(20組・4回連続講座)を実施する。	平成19年度	455,000	413,825	連続した講座の中から子どもの育ちや育児の方法を知るとともに、育児の楽しさを実感し、親の育児力向上を図ることができる。また、親同士の交流が図られ、ボランティア活動や子育てグループの担い手の人材育成等へとつながる。	見直し・改善の上継続	南野川の連続講座参加者が少なく、同会場で、毎月行われている子育てサロンへ参加することで、親の育児不安や孤立感が軽減されていると考える。そこで、サロンの中に子育て講座を組み入れていくことにする。平成23年度はセミナー参加者以外にも広く区内の子育て親子を対象にしたオープンセミナーを1回企画・実施する。	B	こども支援室
9	子ども支援ネットワーク事業 (区民会議課題)	子ども・子育て支援に関わる、関係機関・団体などが、情報交換・課題の共有を行い、連携やネットワークの強化を図る。 1. 宮前区子ども・子育てネットワーク会議の開催(2回 年) ① 子育て支援関係者連絡会(6回 年) 2. 宮前区要保護児童対策地域協議会(3回 年)	平成19年度	275,000	201,109	子ども・子育てネットワーク会議は、6月、2月の年2回開催。学齢期の子どもについて取組みの紹介を行い情報交換を行った。子育て関係者連絡会を年6回開催し、情報交換、事業の展開等について協議した。事業として子育てグループ交流会、うえるかむクラス(2日間)、子育てサロン・赤ちゃん広場等交流会、子育てかわら版発行(2回)を行い、子育て支援活動の活性化、区民への子育て情報提供などができた。要保護児童対策地域協議会実務者会議を3回開催。虐待に関する地区別情報交換、講演会、事例検討会を行い、支援体制の強化にむけた連携を図ることができた。	現状どおり	子どもに関する施策を進めていく上で関係機関・団体等との連携を強化することは重要であるため、議題等の工夫を行い継続する。また、庁内部署の連携を図るために情報交換を含めた会議を行う。	B	こども支援室
10	子ども包括支援事業	地域的に行政サービスや子どもに係わる支援を受けにくかった野川・有馬地区における、子ども・子育て支援ニーズに対応し、0歳から18歳までの子ども・子育て支援を包括的に行う。	平成21年度	3,599,000	3,524,934	年間開所日191日、延べ利用数447名(学齢期以上)164件(相談)、1519名(フリースペース)、95名(貸しスペース)、746名(こども支援室事業)となった。利用者の増加に伴い、町内会・地域ボランティアなどの協力も増えている。また、行事などを通して、「つながり」をテーマに子どもや地域の人との自然な交流が行われ、相互理解に役立った。	現状どおり	活動を継続し、子ども・子育て支援の地域の拠点として、地域の方々の協力を得ながら各事業を充実していく。	B	こども支援室
11	シニアライフ支援事業 (区民会議課題)	団塊世代の大量退職期を迎え、多彩な能力を持つ一方で地域との関わりが薄いとされる団塊世代の活力を地域で活かし、また、団塊を含めたシニア世代の地域デビューや生きがい作りをサポートするために、宮前区シニアアドバイザーとの協働により、相談窓口の開設や講演会を開催する。 ・シニア相談窓口(毎週木曜午前に区役所ロビーで開設 開設日数:55日 延べ相談者数:約200人) ・「大人の文化祭」特別講演会(開催日:H22年2/19 講師:柳田邦男 来場者:約700人)	平成18年度	1,395,000	919,312	シニア世代向け講演会には多くの来場者があり、シニア世代に対して生きがい作りの大切さを考えるきっかけを提供することができた。	終了を見越して継続する	区役所各課に目的や形態が類似する事業があることから、シニア世代の地域デビューをサポートするという事業目的に照らして、事業の内容を精査する必要がある。地域デビュー講座は、市民館主催の「シニアライフを生き生きと」と統合を図った。大人の文化祭は、まちづくり協議会主催の「まちづくり広場LOVEみやまえ」と参加団体や事業内容が重複することから、次年度は合同開催とし再編を進める。シニア相談窓口は、相談内容の大半が地域デビュー以外の相談であり、地域振興課相談情報担当の業務と重複することから、事業のあり方の見直しを進める。	C	企画課

平成22年度 宮前区協働推進事業評価一覧表

NO	事業名	目的及び内容	開始年度	予算額(円)	決算額(円)	成果	次年度以降の事業計画	具体的な展開方針 (※終了する場合は終了理由)	優先度	担当課
4 環境を守り自然と調和したまちづくり										
12	東名川崎インターチェンジ周辺整備推進事業	川崎の北の玄関口としての東名川崎インターチェンジ周辺の景観を整備することにより、川崎のイメージアップを図る。平成19年度、東名川崎インターチェンジ周辺整備推進協議会景観部会が作成した東名川崎IC周辺景観デザイン提案集を基に市民、企業、行政が協力しながら、街並み整備等に生かしていく。東名土橋公園や沿道花壇の維持管理のために地元町内会を中心とした維持管理団体の土橋園芸クラブと連携し、地域との協働による緑の育成等の取組みを推進する。東名川崎インターチェンジ周辺の環境や景観に関する勉強会やイベントの開催を検討する。財団法人川崎市公園緑地協会と連携し、景観まちづくりの推進を図る。	平成16年度	434,000	432,481	東名土橋公園や沿道花壇の維持管理のために地元町内会を中心とした維持管理団体の土橋園芸クラブを設立した結果、その期待に応え、季節ごとに美しい花々が東名川崎インターチェンジ周辺を彩るようになり、川崎の北の玄関口としての景観は著しく向上し、川崎のイメージアップに大きく貢献できた。景観づくりへの取組みを多くの市民に周知することができ、その結果、区内で花壇や緑を維持管理する活動団体にも大きな刺激を与えている。9月に開催した東名花壇祭りでは、地元町内会を通じて子どもから高齢者まで多くの人々が参加し、川崎の北の玄関口の景観に大きな関心を引き起こした。	終了する	平成23年度以降、財団法人川崎市公園緑地協会の地域緑化推進計画と連携し、東名川崎インターチェンジ周辺だけにとどまらず、魅力ある緑豊かな環境を創出するまちづくりを区内に拡大するため、市民活動団体との協働による花壇の維持管理や緑の育成等の取組みを支援する体制を構築する。	—	地域振興課
13	宮前区役所屋上緑化事業	深刻化する地球温暖化現象・ヒートアイランド現象への対策として、区役所庁舎の屋上を緑化する。区民にとって身近な存在である区役所庁舎で屋上緑化を行うことにより、区におけるCO2削減の取組を広く周知し、区民の環境問題に対する意識高揚を図る。また、屋上緑化の身近な施工事例として事業者等の視察を積極的に受け入れ、区内事業所の緑化促進につなげる。施工箇所：G区画（地域保健福祉課屋上：81.0㎡）、K区画（区民ギャラリー屋上：25.6㎡）	平成20年度	2,468,000	2,467,500	施工後、市民活動団体や事業者からの問合せや視察の要請があり、環境問題に対する意識の高揚や緑化促進のきっかけを提供することができた。	見直し・改善の上継続	施工後の経過を観察し、緑化資材の良好な生育状態を確保できた場合は積極的に情報発信を行い、区民や事業者の環境問題に対する意識高揚を促していく。また、効果を検証のうえ、区役所庁舎の他の部分の屋上へ順次緑化面積を拡大していく。	B	企画課
14	公園の魅力アピール事業 (区民会議課題)	公園の利用促進と地域コミュニティ活性化のため、公園内に情報掲示板を設置し、その公園で活動している団体の紹介や公園で行われているイベント等に関する情報を発信することで、公園の魅力アピールする。平成22年度は、3箇所の公園管理運営協議会の協力を得て、試行モデルとして実施する。 ・情報掲示板：アルミ製自立型掲示板（630mm×930mm、アクリル引き戸、シリンダー錠） ・設置公園：初山第2公園、宮崎第3公園、鷲ヶ峰公園	平成22年度	438,000	252,000	区内全ての公園管理運営協議会にアンケートを実施し、そのうち定期的な活動を行っている3つの公園管理運営協議会をモデル実施団体に選定し、3箇所の公園に情報掲示板を設置した。	見直し・改善の上継続	平成23年度上半期の掲示板活用実績から、公園の利用促進やコミュニティ活性化への効果を検証するとともに、管理運営協議会による掲示情報の募集・更新や掲示板の維持管理の方法等を検討し、下半期に本格実施の体制を整える。	B	企画課
15	ecoゴコロプロジェクト	「カーボンチャレンジ川崎エコ戦略」において、多様な主体の協働によるCO2削減の取組みが推進されていることから、使用済みてんぷら油からリサイクル石けんを製造する工場を見学するツアーを開催し、リサイクル石けんの普及と利用促進を図り、CO2削減について区民の理解を高める。	平成21年度	305,000	304,450	前年同様に参加者の評価も高く、区民への環境意識の向上に寄与することが出来た。	見直し・改善の上継続	区民の関心が高かったことから、資源循環のみならず環境に関連する施設の見学や、講座を開催するなど、より充実した内容とする。また、参加者数が限られていることから、より多くの区民が参加できる内容を検討する。	B	企画課

平成22年度 宮前区協働推進事業評価一覧表

N O	事業名	目的及び内容	開始 年度	予算額 (円)	決算額 (円)	成果	次年度以降 の事業計画	具体的な展開方針 (※終了する場合は終了理由)	優先度	担当課
5 個性と魅力が輝くまちづくり										
16	みやまえロビーコンサート	来庁する区民にうるおいのある時間を過ごしてもらい、親しまれる区役所の実現をめざし毎月1回区役所2階ロビーでコンサートを開催する。来場者数は毎回200人前後、毎回レベルの高い奏者を迎え様々な音楽を提供している。 また、今年度は他区に先駆け第200回に達し、第200回記念公演を開催した。 開催日：平成22年7月7日（水） 場所：宮前市民館大ホール 入場者数：約830人	平成5年度	3,553,000	3,331,812	宮前区は他区と比べて音楽事業が少ないため、定期的に関開する貴重なコンサートとして毎回多くの来場者に良質の音楽を提供することができた。バラエティに富んだ出演者を配しているため、毎回コンサートを楽しみに来庁する区民も多数おり、定期開催のコンサートとして定着している。 平成22年7月には、他区に先駆け第200回に達し、第200回記念公演を宮前市民館大ホールで開催した。来場者数は当初予測していた500名を大幅に上回る830名で大好評を博した。	見直し・改善の上継続	毎回バラエティに富んだ構成でコンサートを開催できた。7月には第200回記念公演を宮前市民館大ホールで開催し、より多くの区民に良質のコンサートを提供できた。来年の区制30周年を機に、区役所以外でも演奏が聴ける機会を創出する方法を検討する。	B	地域振興課
17	みやまえ太鼓ミーティング	地域の太鼓団体を中心に、太鼓を通して宮前区の文化・伝統を再認識すると共に、演奏者・来場者相互の交流を深めることを目的とする。公募による区民で組織した実行委員会が企画・運営を行っている。出演団体メンバーも実行委員として参加し、その経験やノウハウを取り入れた区民主体の運営を行っている。またこれまで達成できなかったねぶた制作は、ねぶた制作経験者とのつながりができたことから実現が可能となった。地元中学校との連携によって事業が地域に根付いていくきっかけを作ることができた。 開催日：8月21日、場所：第1部・宮前市民館ホール、第2部・市民広場、来場者数：約1500人	平成11年度	1,744,000	1,722,418	実行委員それぞれが伝統文化の担い手としての自覚をもち、単なる発表会にするのではなく、こどもワークショップや篠笛ワークショップ、合同演奏などを企画し、伝統文化の保存、継承に寄与した。また、今回はねぶた制作経験者とのつながりができたことから「宮前ねぶた」の作成を実現することができ、地元中学校との連携によって事業が地域に根付いていくきっかけを作ることができた。また、昨年に引き続き、地元高校生が広報を担当。より斬新な地域性の高いチラシ・ポスターを作成し、実行委員および来場者に好評を博した。	見直し・改善の上継続	実行委員会の熟練度が高く、自主的な企画・運営を行うことができる環境が年々整ってきている。出演団体同士のネットワークが活性化し区の音楽事業の大きな特徴となっている。地元の学生や活動団体と連携した企画を進めるなど、団体と地域とのつながりを深めることができる方法を検討していく。	A	地域振興課
18	みやまえ新春コンサート	公募による区民で組織した実行委員会による運営の下、区内を中心に音楽活動をしている個人や団体の参加により、相互の交流と協力でコンサートを開催し、音楽を身近に感じてもらう芸術への意識の向上を図る。クラシックを主体とし、オーケストラと出演者の共演、アンサンブルでの演奏などコラボレーションによる構成を特徴としている。 開催日：平成23年1月23日（日）、場所：宮前市民館大ホール 入場券500円（全850席完売） 入場者数：約800人	平成18年度	894,000	778,557	実行委員、出演者同士が交流を図りながら、自主的かつ効率的に事業を運営することができた。スタッフ、出演者が協力してコンサートを作り上げ、来場者に対して上質のクラシックコンサートを提供することができた。毎年定員を大幅に超える入場希望があり、抽選で入場者を決定していたが、希望しても当選しないという区民の声に耳を傾け、平成21年度から有料化（500円）を実施し、今年度は販売開始後21日目に全850席完売するという大成功を収めた。アンケート結果でも、入場料金について安い・妥当という声が90%以上と有料化に賛同する意見が多数を占め、約80%以上がコンサート内容について「とてもよい」と答えるなど、料金・内容ともに高い評価を受けた。	終了を見越して継続する	平成21年度から有料化を実施している。500円の料金では、完売しても全事業の半分程度しか充当できないので、入場料を引き上げるか、経費を削減して現状料金で対応するか、完全自主運営を視野に入れた方策について区制30周年を機に検討する。	C	地域振興課
19	しあわせを呼ぶコンサート	音楽を通じて、障害のある人とない人も一緒にステージを作り上げ、お互いにふれあい、理解を深めることで、心のバリアフリー化を目指し、障害のある人の社会参加等を促すため、区内の障害者福祉施設・作業所に通う人たちによる合唱とゲスト(清水和音:ピアノ)によるコンサートを開催した。 開催日 平成22年9月10日(金) 13:30開演 会場：宮前市民館大ホール 入場者数：約850人。	平成12年度	2,796,000	2,795,720	出演者の皆さんは日ごろの活動や練習の成果を発表することで充実感や達成感を得ることができた。また、来場者アンケートによると、出演者の熱演が元気と感動を与え、障害者に対する理解を深めることに繋がっていている。	見直し・改善の上継続	広く周知されるようになり、来場者数も年々増えている。このコンサートは障害のある方が多くの区民と触れ合い、日ごろの活動を発表できる大切な機会であり、障害者の社会参加と自立を促すために、今後も障害者福祉施設・作業所等連絡会との連携・協力を進め、相互理解と交流の場として、発展させていく必要がある。	B	地域振興課
20	地域の魅力発信事業	宮前区の地域の魅力を区民や他の地域の住民に紹介し、より宮前区に興味を持ってもらうことで、多様な人材の地域づくり・まちづくりに向けた区政への参画を促すとともに、宮前区を訪れる人が増えることで地域経済の活性化にも寄与することを目的とする事業。 宮前区観光協会が任命している観光情報取材記者の活動を支援、区内の歴史・文化を巡るウォーキングイベントや区内駅構内へのサインボード（観光ラック）の設置といった区民による地域の魅力の再発見とその情報発信を内容とする事業を実施する。なお、平成22年度については隣接マンション工事に伴い必要となった坂道の愛称移設工事を実施した。	平成20年度	457,000	116,982	・観光情報取材記者による活動については、取材情報が観光協会情報紙「宮前の風」（年4回発行）に反映されるなど地域の魅力発信につなげることができた。 ・平成21年度に改訂した「宮前歴史ガイド」を活用したウォーキングイベントを新規に実施できた。 ・隣接マンション工事に伴い必要となった坂道の愛称移設工事に迅速に対応できた。	見直し・改善の上継続	好評の「宮前歴史ガイド」を活用したウォーキングイベントについては、「宮前歴史ガイド」を作成した宮前区歴史文化調査委員会への委託とすることで執行体制の効率化を図り、実施回数を増やす。「宮前の風」発行など都市型観光の特徴的な取組として注目される観光情報記者の活動支援については、引き続き継続して実施する。	B	地域振興課

平成22年度 宮前区協働推進事業評価一覧表

NO	事業名	目的及び内容	開始年度	予算額(円)	決算額(円)	成果	次年度以降の事業計画	具体的な展開方針 (※終了する場合は終了理由)	優先度	担当課
5 個性と魅力が輝くまちづくり										
21	みやまえ映像コンクール支援事業	目的：区内の中学生に映像のプロに技術を教わりながら、宮前区を知るきっかけになるようなテーマで映像作品の制作に挑戦してもらい、コンクールを実施する。自分の住み宮前を見つめ直し、地域に愛着を持ってもらうことを目的として開催する。 内容：中学生が、撮影講座及び編集講座を受講した後に、受講者自身が一人5分程度の映像を作り、最終的に上映会を行い表彰する。(平成23年2月27日、日曜日)また、大人の編集体験として、シニアや中学生保護者を対象に映像コンクール受賞者OBやソフト会社元社員から映像の編集を習う。	平成21年度	805,000	805,000	地域や教育現場の評価も向上しており、区内外での地域の催し等で受賞作品が上映され、中学生の目を通した宮前区の魅力発信、再発見というPR効果もある。	終了を見越して継続する	平成22年度で4回目なるが、以前に受賞し映像制作技術を身につけたOB・OGがボランティアとして映像コンクールの運営に関わることができている。その事により、大人向け編集体験という新規事業も可能となり、映像を通してより広い層に働きかけることができている。	B	地域振興課
22	友好都市交流事業	区政15周年を迎えた平成8年度から「個性豊かな新しい都市生活文化を創造する区」の実現をめざすため、長野県佐久市との交流を開始。 物産観光交流：宮前区観光協会へ委託 民間交流事業(子ども自然交流)：平瀬川流域まちづくり協議会へ委託	平成8年度	692,000	460,306	・物産観光交流については、観光協会に委託し、区民祭への物産展招致やりんごオーナー制度PRを適正かつ効果的に推進した。 ・民間交流事業(子ども自然交流事業)については、平瀬川流域まちづくり協議会へ委託し、多くの子どもたちが佐久市の自然とふれあうことができた。	現状どおり	各事業を通して、区民が佐久市の文化に触れるきっかけを提供することができ、一定の役割を果たすことができた。 今後も、物産観光交流と子ども自然交流を柱として交流を推進する。	B	地域振興課
23	カッパーク鷺沼サイン看板整備事業	宮前区のシンボルゾーンとして位置づけて地域交流・活性化促進事業を行ってきたカッパーク鷺沼において、現地に「カッパーク鷺沼」の表示がなく、問い合わせの電話や分かりにくいとの指摘があったことから、入り口付近にカッパーク鷺沼の名称や由来を掲載したサイン看板を設置して区民への周知を図る。 広場の入り口付近にサイン看板を設置：アルミ製自立型傾斜サイン(表示面600mm×900mm)	平成22年度	829,000	787,500	入り口付近に「カッパーク鷺沼」のサイン看板を整備したことで問い合わせの電話はなくなった。	終了する	サイン看板の整備が済んだため事業を終了する。	—	企画課
24	みやまえカルタ制作事業 (区民会議課題)	【目的】区民共通の地域の「資源」や「宝」を持つことで、地域への愛着を育み、ひいては地域コミュニティの活性化につなげることを事業の目的とする。 【内容】地域への愛着を涵養し地域コミュニティの活性化を目指し、幅広い世代が参加して地域の資源を探すカルタ制作に取り組む。	平成22年度	599,000	166,095	カルタの制作過程において、地域の資源を探すことを通して、地域に愛着を持ち、参加者同士が顔見知りとなっていくことで地域コミュニティの活性化につながった。	現状どおり	区民会議から提案された取組であり、区民自身が課題を発掘し、課題解決に向けて取り組むものとして大きな成果がある。 区政30周年にあたる平成24年度には、地域のカルタから選抜した「みやまえカルタ」を作成し、地域を知り愛着を深めるツールとして各種イベントなどで積極的に活用していく予定である。	A	企画課
25	NHK公開番組収録実施事業	子育て支援の一環として、多くの転入者を含む子育て世代が地域に馴染んでもらうきっかけ作りとして、子ども向け公開番組収録を開催し、会場で参加した親子だけでなく視聴者も楽しみながら、地域への関心を高めてもらうことを目的とする。 ●NHK BS2「BSななみDEどーも！」の公開収録オープニング(歌と収録地紹介)、「ななみDEどーも一座」(キャラクターによる劇)、「ななみのどーもいらっしやい」(歌やマジック、パフォーマンスのゲストコーナー)、「ななみゴーゴー！」(キャラクターが旅に出て、いろんな人と触れ合うコーナー)など 開催日時等 平成22年12月5日(日) 午後2時半～3時半 宮	平成21年度	279,640	184,605	番組キャラクターが、地域の人と触れ合うコーナーでは、老人会の運動会を取り上げることができ、より幅広い年代の方の感心を得ることができた。	終了する	平成21年度、平成22年度と2年連続で実施したことから、当面は事業実施を見送り、実施する際には、他の事業の実施状況等から、判断することとする。	—	企画課

平成22年度 宮前区協働推進事業評価一覧表

N O	事業名	目的及び内容	開始 年度	予算額 (円)	決算額 (円)	成果	次年度以降 の事業計画	具体的な展開方針 (※終了する場合は終了理由)	優先度	担当課
6 参加と協働による市民自治のまちづくり										
26	まちづくり推進事業	区民と行政との協働による魅力あるまちづくりを推進するため、区民、地域団体、学識経験者、企業の代表及び行政を構成員とした、まちづくり協議会を設置し「宮前区区づくりプラン」の推進及び実現を目指す。 平成22年度の理事会開催数は12回で、参加人数は毎回14、15人（定数21人）程度。市民活動への活動支援事業（広報紙運営委員会による「まちづくり広場」（発行部数約7千部）を通じた市民活動の広報、資金支援運営委員会の活動支援金制度による活動支援など）、情報支援部門による市民団体ネットワーク化の推進等、中間支援機能についての役割を推進している。	平成9年度	4,369,000	4,287,840	広報紙運営委員会の「まちづくり広場」は毎月発行し、活動支援金を受けている団体等の活動情報を発信した。活動支援金については区内の21団体に資金支援し、市民活動の活性化を図った。情報支援部門では、活動のPRを目的とした市民活動団体向けの特別講座とフォロー講座を実施し、好評を得た。また、過去に発行した市民活動団体ガイドに新たな活動団体を加え、計102団体の活動情報を掲載した改訂版を発行した。協働部門では、みやまえふれあいフェスタ等への参加協力や「みやまえ市民活動のなかま」記念誌の発行に協力した。企画部門では、市民館と協働で、農に関する取組みを実施し、フォーラムを共催した。また、第5回フォトコンテストを開催した（応募作品数は昨年より50作品増の、過去最多の206点）。	見直し・改善の上継続	区民と行政との協働による魅力あるまちづくりを推進するためには、市民や活動団体を「つなぐ、むすぶ、ひろげる」といった活動が今後も重要であり、課題解決に向けて区民主体の、まちづくり協議会等と協働して、快適で住みやすいまちづくりを目指す。	A	地域振興課
27	まちづくり支援事業	区民と行政との協働による魅力あるまちづくりを推進するために設置されたまちづくり協議会に対して、まちづくりの専門的見地からコンサルティングを行うだけでなく、広く区民によるまちづくり活動に対してコンサルティング等を行うことで、区民活動の推進が図られるため、平成20年度から単独事業とした。適切なコンサルティングを受けることにより、区内のまちづくりの活性化を目指す。	平成20年度	3,181,000	3,180,450	まちづくり協議会へのコンサルティングとして、第3回まちづくり広場ラブみやまえへの当日までの運営に関わる支援や視覚的に分かりやすい案内チラシ等の作成、まちづくり市民活動応援カタログ改訂版の企画作成、昨年度好評だった市民活動団体向けPR特別講座をチラシづくりに焦点を絞り開催、その後のフォロー講座も実施し、アンケート等から大変好評を得た。その他、成果物のデザインに関することやチラシ作成等でコンサルタントの貢献度は大きい。市民活動団体の活動がより活性化した上、まちづくり協議会が中間支援機能を有する組織として、効果的に活動できた。	見直し・改善の上継続	区民にとって住みやすいまちづくりを行うため、まちづくり協議会や区民のまちづくり活動に対して専門性を有するコンサルタントからの適切なコンサルティングは必要である。慣例慣行を改善し、委員による新しい企画を実現する際にコンサルの専門的能力への期待感は大きく、新たな企画、創造の契機ともなる。今後も計画的な企画展開を委員とともに図る必要がある。	B	地域振興課
28	みやまえふれあいフェスタ	「ふれあいとコミュニティ」をテーマとし、区役所、宮前市民館及び市民広場を会場に、区内で活動する非営利団体による各々が持つ特性やノウハウを生かした対話・体験等の来場者とのふれあいを重視した催し、慰問演奏等を行っている音楽グループ等による発表、福祉施設による出店を中心とするイベントを開催する。区が参加団体および実行委員を公募し、委員会を組織して実施・運営を行う。 日時：平成22年5月16日（日）10時～15時 場所：宮前区役所・宮前市民館・市民広場 来場者数： 約12000人	平成7年度	1,769,000	1,730,765	区役所駐車場有料化に伴って会場の縮小を余儀なくされたが、集客方法について検討する会議を設け、具体的な集客策を提案・実行するなど、イレギュラーケースに対応しながら事業を進める。	見直し・改善の上継続	老若男女多数の方に来場してもらっているが、運営側としては生活基盤や活動時間の問題でシニア世代が中心となってしまっている。若い世代を地域活動に巻き込むことで、参加と協働によるまちづくりをより拡幅しながら実践する。	B	地域振興課
29	みやまえスポーツふえすていばる	従来から宮前区内で行われてきた複数のスポーツ大会を、スポーツ技術の向上、健康増進という共通の事業目的のもと関連した事業としてひとくくりにするとともに、新規の大会についても企画し実施することで、区民に対してスポーツ参加意識の向上を図っている。バレーボール大会やソフトボール大会では競技・審判レベルの向上を目的とし、歩こう会やディスカバーウォークについては、区民同士のふれあいや、高齢者や若年層の健康増進を図ることが最大の目的であり、広報を通じ、広く参加者を募っている。	平成3年度	2,282,000	1,542,941	バレーボール大会、ソフトボール大会では継続して参加しているチームほか、新規チームの応募もあり、より多くの方が参加でき技術向上にも繋がっている。また、ニュースポーツとして開始したドッジビー大会では年々参加者が増えてきており地域の小学生を中心に競技として認識されてきている。その他、歩こう会やディスカバーウォークなど、広く参加を募る健康増進と交流を目的とした大会は、区民がスポーツを通じてふれあう機会ができ、区民交流を図ることができている。	現状どおり	現在、事業目的は例年どおりほぼ達成されており、今後も幅広い世代・地域の住民に参加してもらうため、市政だより等を活用し広報を行い、区民の健康増進にさらに寄与できるよう事業を継続する。	B	地域振興課
30	地域情報発信事業 (区民会議課題)	地域のイベント情報を掲載したフリーペーパー「歳時記みやまえ」を発信し、地域活動への参加促進、地域への愛着や関心の向上、地域コミュニティの活性化を図る。 また、広報資料の効率的な提供と町内会・自治会の負担軽減のため、回覧物の一括配送を行う。	平成20年度	3,476,000	2,571,092	「歳時記みやまえ」は、発行から2年が経ち、紙面のマンネリ化が課題であると考えている。 町内会・自治会への回覧物一括配送は、配送コストは抑えられているが、回覧物の配送量は月によって大きなバラつきがあり、月によって広報効果が異なっていることが想定される。	見直し・改善の上継続	地域のイベント情報については、「歳時記みやまえ」以外にも、地域ポータルサイトの活用など、情報の収集方法の見直しや、紙媒体以外での発信、様々な機会での配布を行っていく必要がある。	B	企画課

平成22年度 宮前区協働推進事業評価一覧表

N O	事業名	目的及び内容	開始 年度	予算額 (円)	決算額 (円)	成果	次年度以降 の事業計画	具体的な展開方針 (※終了する場合は終了理由)	優先度	担当課
6 参加と協働による市民自治のまちづくり										
31	地域の課題解決に向けた事業提案制度	「参加と協働によるまちづくり」を実現するため、地域の課題を地域自らが発見し解決していくことを目指し、事業提案を広く募集・選定し、選定された事業を市民活動団体が実施する。	平成18年度	441,000	0	平成22年度は事業提案がなかった（21年度は1事業）。	見直し・改善の上継続	制度のリニューアルの効果や課題を検証しながら事業を継続する。また、提案件数が少ないことから、ホームページでの周知等の広報だけではなく、必要に応じて直接、制度の存在を紹介することが必要である。	B	企画課
32	宮前区役所事業概要発行事業	区役所の業務は多岐にわたっており、区民には業務内容や予算などの全体像が分かりにくい。そこで、区の事業や予算をまとめた冊子を作成し、区民に区の施策を分かりやすく体系的に周知する。また、区の情報積極的に発信し共有することで、区民をはじめ様々な人達が協働していく一助とする。 発行：5月、発行部数：2,000部、配布場所：区役所、出張所、連絡所、行政サービスコーナー	平成19年度	407,000	245,700	発行当初は、わかりづらい区役所の事業を説明する資料として価値が高かった。平成23年度で発行から5年間発行していることから、一定の目的が達せられたと考えられる。	終了を見越して継続する	現在の形式での情報発信は終了する。なお、第3期区民会議では、区民の参加を促すガイドブックの作成に取り組んでおり、こうした議論を踏まえながら、区民目線からの情報発信を行う必要がある。	C	企画課
33	宮前区ガイドマップ作成事業	部数 15,000部（転入者8,000部 各窓口設置4,000部 イベント等活用2,000部 他1,000部） 配布時期 10月 地図情報、施設情報等のデータ修正情報の更新に伴い毎年度発行をする。5年に1度、全面改訂を検討する。	平成8年度	1,150,000	814,275	今回の発行で交差点名の表示、信号機位置の図示を行った。また、「川崎生活ガイド」と差を明確にするため、併せて地域の魅力発信も視野に入れたマップとするため、施設情報面をまちづくり協議会が主催している「フォトコンテスト美しい宮前区」の特集面に変更した。結果、地域の魅力を紹介するガイドの要素を含んだマップとなり、区の貴重な情報発信手段のひとつとなっている。	現状どおり	転入者以外のニーズも多く、ちょうど一年での在庫切れが想定されるため継続的に発行をする必要がある。また、発行の際には川崎市のカラーユニバーサルデザインガイドラインが策定されたことから、可能な限りガイドラインに即した発行を目標とする。	A	地域振興課
34	宮前区役所BGM配信事業	庁舎内にBGMを流すことにより、単に行政上の申請等を行う場としての区役所にとどまらず、区役所を区民にとって身近で明るく親しみのある場所として提供する。	平成14年度	42,000	42,000	BGMを流すことにより、庁舎内を明るく、かつ身近で親しみやすい空間とすることができた。また、BGMが流れる空間で区民と職員双方に心のゆとりが生まれ、スムーズな対応等窓口サービスの向上にもつながった。	現状どおり	現在の状況において、BGMの活用による親しみのある空間を創出できているため、今後も継続していく。	B	総務課
35	バリアフリー推進事業	宮前区役所敷地内市民広場南側の階段部分（約175㎡）は、降雨時や降雪時に大変滑りやすく危険であり、過去にも来庁者が転倒し怪我をしたことがある。その為、階段部分（約175㎡）のノンスリップタイルへの張替整備を行うことにより、区民が安全に、また安心して利用できる庁舎づくりを行う。	平成15年度	3,750,000	3,090,863	宮前区役所敷地内市民広場南側の階段部分のノンスリップタイルへの張替整備（約175㎡）を行ったことで、区役所利用者の安全性が向上した。	見直し・改善の上継続	平成15年度から継続して整備を行っているが、市民広場周辺など改善の必要がある部分はまだ残っている。今後も庁舎の安全確保のため、バリアフリー化を継続して行っていく。	A	総務課
36	窓口サービス向上事業（区役所シンボルマーク入り封筒作成・待合スペース環境整備・窓口番号札発券機の買い替え）	・区民にとって区役所に親しみを持ってもらうため、文書や資料の郵送等に用いる独自の封筒を作成する。 角2 10,000部、長3 10,000部 ・驚沼行政サービスコーナーを訪れた高齢者や障害者の方がスムーズに証明書を取得できるよう配慮を行う。 ・保険年金課には年間を通じ多数の来庁者があるが、係の窓口ごとに来庁者をさばき、待合時に順番待ちで混乱やトラブルが生じぬように番号札発券機を使用している。平成14年7月から使用している現行機種は老朽化による不具合が多発し、度々来庁者に迷惑をかけているため、買い替えを行う。	平成21年度	2,035,000	1,572,829	・区のシンボルマークや、フロントウンとの協定ロゴを印刷することで、区への愛着や区役所に親しみをもってもらうことが期待できる。また、郵送物を受け取った区民が、区からの通知等であるために注目してもらえ効果がある。 ・福祉用椅子を設置することで、様々な障害をお持ちの方や歩行にステッキが必要な高齢者等の「立つ」「座る」という日常動作の安全確保と負担軽減を図ることができた。 ・必要数が購入でき、当初予定の機能を発揮している。	見直し・改善の上継続	・区民サービス向上の視点から、シンボルマーク入り封筒を使用する課を増やし、可能な限り経費削減を目指すことを検討していく。 ・区役所来庁者が多いフロアの待合スペースの環境整備は必須であり、今後も継続的に検討をする必要があるものと思われる。 ・今後は番号札発券機のメンテナンスをこまめに行い不具合の発生を抑え、快適な窓口環境の維持に努める。	B	総務課 区民課 保険年金課

平成22年度 宮前区協働推進事業評価一覧表

NO	事業名	目的及び内容	開始年度	予算額(円)	決算額(円)	成果	次年度以降の事業計画	具体的な展開方針 (※終了する場合は終了理由)	優先度	担当課
6 参加と協働による市民自治のまちづくり										
37	市民活動支援拠点ネットワーク事業	区における区民活動の拠点は、現在区役所内に設置している区民活動支援コーナー、向丘出張所内の区民活動支援コーナー、平成21年度に開館した高齢者施設「富士見プラザ フォンテーヌ驚沼」の1階部分の「ふれあいスペース宮前」と有馬野川生涯学習支援施設によって、区内を一定程度カバーできたことから、それぞれの地域の施設を活用した活動支援拠点の充実を図る。 市民活動団体の情報収集及び発信を行うため、宮前区役所区民活動支援コーナー開設(平成12年6月12日)10周年を記念し、協働のルールに基づき区民活動支援コーナー利用者会議運営委員会と委託契約を締結し、利用登録している市民活動団体を紹介する10周年記念冊子「みやまえ市民活動のなかま」を作成。利用登録団体(80団体)のうち62団体の活動などをカラー写真入りで掲載。	平成22年度	711,360	710,767	宮前区区民活動支援コーナー10周年記念誌「みやまえ市民活動のなかま」作成により、支援コーナーに利用登録している市民活動団体との情報交換が可能になり、団体を通じて他の支援コーナーとの連携強化につながった。また、記念誌を通じて、利用登録団体間交流も活発になるよき契機となった。	見直し・改善の上継続	区内の市民利用施設を活用した市民活動拠点の有効利用促進のための情報収集や発信等の機能充実を図る。平成23年度は、中間支援機能を有する区まちづくり協議会を通じて、区内の市民利用施設を紹介したマップおよび支援コーナーに利用登録している市民活動団体を紹介した冊子を作成し、施設利用及び市民活動団体への加入を促進する。	A	地域振興課 向丘出張所
38	魅力あるスポーツ推進事業	目的：平成22年12月にフロントウんさぎぬまと締結された「まちづくり連携協定」をより多くの区民に周知すること 内容：フロンターレのマスコットであるふろん太とカップパークマスコットのカッチャんのイラストが載ったシールを作成し、連携事業や区内各種イベントで配布する。	平成22年度	359,000	358,050	「まちづくり連携協定」を効果的に周知するため、子供たちに親しみのある「ふろん太くんとカッチャん」をデザインしたシールを作成することで、より多くの区民にアピールすることができた。	見直し・改善の上継続	連携協定シールは区内の各種イベントや区役所内等で配布されている。まちづくり連携協定に基づき、来年度は区政30周年イベント等フロントウんさぎぬまとの連携事業を実施する。	A	地域振興課

平成22年度 宮前区協働推進事業評価一覧表

N O	事業名	目的及び内容	開始 年度	予算額 (円)	決算額 (円)	成果	次年度以降 の事業計画	具体的な展開方針 (※終了する場合は終了理由)	優先度	担当課
7 その他										
39	管理運営経費	協働推進事業における事務経費		839,000	519,159	適正な維持・管理ができています				
40	緊急対応費			70,000	0	当初予算では1,112千円を計上していたが、1,042千円を新規事業や追加事業に充てたため、残額が70千円となった。				
合計				55,483,000	46,581,177					

【優先度の考え方】

A	<ul style="list-style-type: none"> 区民会議からの提案を踏まえた事業で、最初の数年間において重点的に行う必要のあるもの 総合計画、その他行政計画等に位置付けられた事業で、新規性が高く、重点的に行う必要のあるもの(終了が見込まれるものを)
B	<ul style="list-style-type: none"> 区民会議からの提案を踏まえた事業で、数年たって安定的な運営となり、特段の事情がない限り今後も継続して行っていく必要 これまで継続して行われてきている事業で、地域にとって一定のメリットがあるため、特段の事情がない限り今後も継続して行っていく
C	<ul style="list-style-type: none"> A及びBに当てはまらない事業 終了が見込まれる事業